



今回は、全国高等学校歴史学フォーラム(九州国立博物館)の報告です。

◇ 文化遺産の保全、生涯学習の機会促進は、SDGsに含まれます。



◇ 博物館・生涯学習・SDGs・博学連携

博物館は「資料の収集・保管、展示による教育、調査研究」を一体として行う機関であり、人々が、モノを通じて文化・歴史・自然を考え学ぶ場です。扱う対象も、古文書や考古資料、美術品、自然史・科学史資料など多種多様ですが、いずれも先人が守り伝えてきた貴重な遺産です。

博物館は「社会教育・生涯学習のための施設」。近年では地域の学習拠点として、子どもたちへの体験型学習の機会提供や、ボランティア等の協力を得た博物館活動、地域活性化のための活動など、社会との活発なコミュニケーションに基づく活動が広がっており、「博物館」のイメージをダイナミックに変えています。(文部科学省「博物館 - これからの博物館」2011を参照)

生涯学習の機会促進 (icon4 target1・7ほか)、文化遺産保全 (icon11 target4) は、SDGsに盛り込まれた目標でもあります。

関高校地域研究部は、岐阜県博物館と連携した活動(博学連携事業)として、今回の研究活動を行いました。さらにその成果を、日本考古学協会(於:明治大学)や歴史学フォーラム(於:九州国立博物館)の場において発表しました。秋には岐阜県博(9月11日~10月21日)で企画展を実施する予定です。



◇ 2018全国高等学校歴史学フォーラム

2014年にスタートした「全国高等学校考古学フォーラム」は、より多くの高校生が参加できるよう、2017年より「全国高等学校歴史学フォーラム」と名称を変更し規模を拡大しました。

今年は、北は福島県から南は大分県まで、7県10校の高校生が集い、九州国立博物館で日頃の活動成果を発表しました。メインイベントである参加各校によるポスター掲示(13:00~16:30)、研究内容の口頭プレゼンテーション(13:00~16:00)のほか、太宰府天満宮本殿見学、実験タイム(きゅーはく石器 de クッキング!)、博物館バックヤードツアーなどの催しもあり、他校生徒とともに、歴史を深く学ぶことができました。

日 時： 2018年8月4日 13:00～16:30
場 所： 九州国立博物館 1F ミュージアムホール
参加者： 歴史研究系部活動所属している生徒（7県10校）
 関高校からは地域研究部員1名が参加（3年7組 西部寛太君）
 本校発表テーマ 「よみがえる渡辺三三旧蔵資料」
 http://school.gifu-net.ed.jp/seki-hs/sgf/html/pdf/h30_sghjoho_5.pdf
主 催： 九州国立博物館



九州大学総合研究博物館



九州国立博物館



歴史学フォーラム参加者で記念撮影



太宰府天満宮本殿を拝観



九州国立博物館のバックヤードツアー。普段は絶対のぞけない収蔵庫や文化財の修繕の様子を案内していただきました。

◇ 発表者（3年7組 西部寛太君）の感想

このたび私は、九州国立博物館にて開かれた全国高等学校歴史学フォーラムに参加させていただきました。

私は「文化財の保全と活用について考える」というテーマで、岐阜県出身の歴史研究家、渡辺三三が旧満州から持ち帰った考古遺物や写真、書籍を研究しました。この研究は私ひとりで行ったわけではなく、関高校地域研究部全員で行ったものです。ですから、「みんなで研究した成果、そしてこれから私たちがどのように文化財を後世に伝えるべきかを聞きに来てくださる方に伝えたい」という強い思いを持って臨みました。

来場者のみなさんが私の説明をとっても熱心に聞いてくださって、質問や貴重なアドバイスも数多くいただきました。これからの研究そして自分がレベルアップするチャンスをいただけたことに対する感謝の気持ちで一杯です。また他の高校の発表を見たり、情報交換をしたりしてとても刺激的で有意義な時間でした。

今現在、国立博物館で高校生が研究発表をする機会は、九州国立博物館しかないそうです。私自身今回参加して、この「歴史学フォーラム」は非常に良い機会だと思いました。実際、私は説明をしている際、お客さんや研究者の方からアドバイスや新たな情報をいただいたりして、視野が広がり、考え方が多角化しました。また、歴史学や考古学には興味のない方が、興味を持つきっかけになると思います。このフォーラムはとても重要だと思います。ぜひ九博の方にはこれからもフォーラムを続けていただきたいと願っています。そして、来年も関高校からこれに参加してほしいと願っています。

今回、参加できて本当に良かったです。ともに研究した仲間、支援して下さった先生方、博物館の方に感謝し、この経験を今後役に立てます。

